〈大学生・社会人の部〉　最優秀賞

友だち百人できるかな

齊藤　千恵

「友だち百人できるかな」保育園や幼稚園の卒園式・小学校の入学式でよく歌われている『一年生になったら』という歌の中に出てくる言葉だ。令和になっても歌われているのだろうか。一年生になったら、友だちをたくさん作って楽しい生活をしようねという明るく元気な歌だ。まどみちお作詞、山本直純作曲の名曲だ。

それなのに「友だち百人」というところにひっかかる人もいるらしい。テレビで活躍しているタモリさんや林先生が「友だちはたくさんいなくていい。」と否定的な意見を言っているのを聞いたことがある。私も友だち百人はちょっと無理だよなと思う。まあ子ども向けの歌だし、そんなにめくじらをたてることもないしと思っていた。

ところが、私は勤務していた小学校で「友だちはたくさん作るもの」と思い込んで、悩んでいる多くの子どもたちに出会った。この歌のせいだけではないと思うが、学校という所は「みんな仲良く」という感じがあるのだろう。まじめな子ほど「友だち百人」は、重くのしかかる感じなのかもしれない。

ある少女は卒業を前に

「私は友だちが一人もできなかった。」

とつぶやいた。

私は自分のことを考えてみた。今までの人生の中で友だちと呼べる人はいるだろうか。私のことを理解して心配してくれる人、励ましてくれる人を友だちというのなら、数人しかいない。でも、仲間という言葉に置きかえれば、たくさんの仲間とは出会ってきた。幼ななじみのような小学校の仲間、中・高の時の部活の仲間、大学の時のサークルやゼミの仲間、新任研修を一緒に受けた同期の仲間、子どもたちのためにと力を合わせた職場の仲間、中には意見の合わない人も、どうしても好きになれない人もいたけれど、目標に向かって過ごした時間は貴重なものだ。

あの歌の歌詞の続きも

「百人で食べたいな、富士山の上でおにぎりを」「百人でかけたいな、日本中をひとまわり」となっている。

あの歌が伝えているのは、たくさんの人と一緒にやると楽しいこともあるし、たくさんの人と一緒でなければできないこともあるよ。ということだったのかなと気づいた。

卒業式の日

「中学校へ行ったら、小学校よりたくさんの人がいるから、きっとあなたと気の合う子が一～二人はいると思うよ。まわりをよくみて探してみてね。友だちはたくさんいなくても大丈夫。そして、体育祭や合唱コンなどみんなで取り組む時には全力で参加してみてね。きっと何かすてきなことが起こるから。楽しい三年間になるように応援しているからね。」

私は、そんな言葉をかけて、少女を送り出した。

和の力で、環を創る。
100TH
MUTSUMI GAKUEN